

生駒市緑の基本計画改定懇話会 第1回分科会 議事要旨(案)

1. 日 時

令和7年5月22日(木)13時30分～14時40分

2. 場 所

生駒市コミュニティセンター205会議室

3. 出席者

【参加者】公園プレイスメイキング分科会:田村康一郎・伊藤智子・福井美樹・福田佳明、
自然との共生分科会:松本光朗・磯貝猛・辻野勝久・町矢真美・森田広幸・井上良作
【事務局】建設部みどり公園課 米田部長・巽課長・高橋課長補佐・深瀬
(株)ヘッズ 田中・稲熊・岡本(慎太郎)・岡本(佳奈)

4. 傍聴者

なし

5. 議事要旨

(1)開会

・担当課より開催趣旨等を説明

(2)出席者紹介

・事務局より出席者を紹介

(3)案件

・緑の基本計画の改定について資料説明を事務局から行い、その内容について意見交換を行った

① 公園プレイスメイキング分科会

■実践されていることで、もっと伸ばしていきたいこと、新たに出来たらよいと思うこと

- ・自分たちが楽しくできる状態での活動の継続
- ・地域イベントのマンネリ化を防ぎたい
- ・マーケットの開催を通じて地域交流や地域活動と繋がりたい
- ・子どもや中学生が、ボール遊びやスポーツが自由にできないケースがある

■伸ばしていきたいこと、出来たらよいと思うことが、どのようにすればできるか？緑にかかわる人・活動を広げていくためにはどうすればよいか？

【活動の継続】

- ・自分たちが楽しめ、手に負える範囲のこと、手をかけないでできることをしている
- ・公園を占用せず、使用料が発生しない自由使用の範囲の中で活動し、金銭的な負担を減らしている

【地域イベントのマンネリ化の防止】

- ・いこまマルシェなど自治会以外の活動と連携し、マンネリ化を防止している
- ・キッチンカーも並ぶ地域イベントは好評で、自治会に入っていない地域外からの人も多く訪れるため、公平に一律金額を徴収している

【地域交流や地域活動に繋がる公園でのマーケットの開催】

- ・自治会で公園の草刈りをされてタイミングに合わせ、マーケットの開催と出店者も一緒に草刈りを行う提案を、自治会にしてみてもどうか
- ・自治会イベントの企画に地域交流を目的としたマーケットを入れられないか、事前に自治会に相談してはどうか

【ボール遊びやスポーツができる場所づくり】

- ・地域によっては、1つの公園の中で、ボール遊びなど場所を譲り合って上手くつかっている公園もある
- ・ボールが跳ねる音や、住宅にボールが飛び込んでくるため、公園の近くに住む人の理解が必要になる
- ・公園でスポーツを子どもに教えられる有料のプログラムがあってもよいのではないか

【緑にかかわる人・活動を広げる】

- ・地域交流や、地域の子どもの体力づくりや運動の機会など、地域に役立つ有料の活動を、自治会と連携し、減免措置の対象となる地域活動として、公園で実施できると活動が広がるのではないか
- ・地域で何かしたい人が相談できる未来会議のような仕組み、何かしたい人と自治会をつなぐコーディネートができる人の存在があるとよい
- ・単発の企画に関われるようにし、自治会組織に属さなくても公園で活動できるとよい(その代わりに、自治会とのコーディネートが出来る存在や仕組みが必要)
- ・自分たちの活動の継続が、一緒に何かしたいと思う人、新たに何か始める人のきっかけになっている
- ・学研奈良登美ヶ丘駅前の公園のように、生駒市が直営で管理している公園で、駐車場が近くにあり、住宅にも囲まれていない公園は利用しやすい

■緑の価値や緑に期待している効果など

- ・活動場所に、地域の人が訪れやすい公園を利用することで、地域の人との交流が期待できる
- ・自治会の公園清掃に、近くの幼稚園の子どもにも参加してもらうことで、将来ゴミのポイ捨てをしないようになってもらえることが期待できる

② 自然との共生分科会

■実践されていることで、もっと伸ばしていきたいこと、新たに出来たらよいと思うこと

【森林や農地の『整備』への理解を拡げ、市民と緑の距離を近づけたい】

- ・森林と市民の距離をもっと近づけたい
- ・森の「整備」という言葉が、一般の人にとっては、森林環境を改善するという意味ではなく、土地の造成や道路などの施設の建設と捉えられている恐れがある。
- ・なぜ森の整備が必要なのか理解してもらい、他人事ではなく自分事ととらえてもらうことが大事

- ・里山をまもるため、利活用を人々に広げたい
- ・そのためには「整備(森林環境を整える意味)」が必要ということを伝えたい

【市民、学生、企業など様々な人と緑、人と人をつなげたい】

- ・学生や企業を対象とした体験プログラム、年間を通しての自然教育、家族での体験プログラム、学校内の学びから地域での学びの場へと広げたい

【農業、地域活動などにかかわる人を増やしたい】

- ・農業にかかわる人をもっと増やしたい
- ・そのためには、農業学校や農体験の機会、新規就農支援といったソフト面での取組のほか、農地の環境整備(農地、水路、農道、水道、電気など)も重要
- ・生駒市の農地は市街化調整区域に多いこともあり、営農に必要な環境が整っていないことや地形の関係などで扱いにくい場所が多い。一方、市街化区域では固定資産税がハードルの1つ
- ・農業体験は子ども達が参加することで次世代への循環を生み出すような取り組みが必要
- ・新規就農はハードルが多く、一人では越えられないが、様々な個性(タレント)をもつ人たちがグループになって一緒に取り組むことで補い合って解決している
- ・メンバーの人数減少により活動がスムーズに進まなくなる団体もある。地元や自治会との連携や、若い世代(高校生や大学生)の参加を拡げたい

■伸ばしていきたいこと、出来たらよいと思うことが、どのようにすればできるか？緑にかかわる人・活動を広げていくためにはどうすればよいか？

【実践を伴う教育や体験の機会・場所づくり】

- ・森林教育など現地での学びの場、実践を伴った教育が必要である
- ・実践に際して、何のための整備なのか、そのバックグラウンドやポリシーをわかりやすく共有したうえで取組むことが重要である
- ・整備された森林で、例えばガイドツアーなどを行えば、市民が森林とふれあう機会が増え、生駒市をもっと好きになってもらうことにつながる

【相手の思いや状況に合わせた支援】

- ・農業については、家庭菜園から就農まで幅広いかわり方がある
- ・それぞれの人が考えていること、やりたいと思っていることは違うので、各ステップに応じて相手に合わせた支援が必要
- ・Learn in the forest / Learn about the forest / Learn for the forest という学びの各段階を意識して、それぞれの段階に応じたアプローチが必要

【市民が緑とかかわり、市民と市民がつながるしくみ】

- ・学生に体験してもらうことで、そこから家族へと広がる入り口をつくることが大事
- ・あそびを入り口にして、楽しめる・うまみのあるプログラムから始めることで、市民同士がつながり、一緒に緑の維持管理にかかわれる

- ・生駒市には既に活動されている人がたくさんいるので、もっとSNSなどで情報発信して、メジャー化して共有するとよい
- ・竹林や里山、農地に長期で関われるしくみ(現状では支援策が一定期間であったり、市担当者が途中で変わってしまう)

■緑の価値や緑に期待している効果など

- ・自然環境は、子どもや学生に感動を与え、様々な学びを与えてくれる

6. 閉会

- ・事務局より挨拶と次回の案内

以上